

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1070102007		
法人名	ケアサプライシステムズ株式会社		
事業所名	グループホームなでしこ		
所在地	群馬県前橋市関根町2-7-3		
自己評価作成日	平成28年9月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど		
所在地	高崎市八千代町三丁目9番8号		
訪問調査日	平成28年10月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・地域との結びつきを重視し、定期的に来訪して下さるボランティアがある。 ・入居者様には、「季節感」「メリハリのある生活」が持て頂けるよう、外出・外食・施設内行事等で支援している。 ・清潔の保持には特に力を入れている。(排泄後には毎回清拭) ・毎日入浴を実施している。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>利用者が気持ち良く生活できるよう、身体の清潔保持の支援が徹底されている。毎日入浴している利用者はもちろん、入浴しない日でも清拭と着替えを支援している。入浴を好まない利用者に対しても無理強いすることなく、日にちや時間を変え、タイミングや声掛けなどの働きかけを工夫している。館内も清掃が行き届いており、季節に合わせた落ち着いた装飾がされている。職員は、理念に掲げている『真心・優しさ・笑顔』で支援する事の難しさを確認しながら日々の気づきを共有できるよう努めている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に感謝の気持ちを忘れず、真心・優しさ・笑顔あふれる環境を提供致します。	事業所の掲げる理念を会議で確認している。職員は、理念が示す『当たり前のことにつづく難しさ』を意識する場面を増やすよう心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所は地域とのつながりを大切に保育園児やボランティアの慰問がある。自治会にも加入し各利用者に広報が届いている。地域の方が施設の見学に来ることもある。	自治会活動やボランティアを通じ地域の情報が得られている。ギターやハーモニカ・歌や踊り等の慰問、年2回の保育園児の来訪がある。自治会から紹介され見学に来訪する人もいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等、地域の方に事業所の支援の取り組み方法を伝えたり、ボランティアや慰問等に、認知症に対するケアの取り組み方の説明等をし、理解していただくよう努力している。また、救急救命講習会を年1回開催している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市との連携は本社の担当者が行っていますが、管理者は運営推進会議等で、市の担当者に相談や疑問等を直接話し合い、又、ご家族や地域に行事報告や意見を求めている。	2か月ごとに運営推進会議は開催している。行政担当者や地域代表者は毎回参加しているが、家族の参加が少ない。AED講習をした時には家族2組も参加した。	引き続き家族や利用者も参加し、情報交換ができる調整や企画に取り組んでいただきたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	本社の担当者が市町村担当者と日頃から連絡を取り、情報交換をし協力関係を強める努力をしている。	法人の担当者と管理者が日常的に行政と情報交換を行っている。介護保険の更新は家族が実施しているが、必要に応じて支援を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会を開き、玄関の施錠については、常に話し合い検討している。	玄関の施錠が身体拘束に含まれている事は学習しており、以前に比べ職員の開錠への意識も高くなっているが、地域の意向もあり、実践には至っていない。	他の事業所の取り組みを紹介したり事業所の考えを繰り返し伝えながら、地域の理解を得る努力を行っていただき、短時間でも開錠を試みてはどうか。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の徹底、管理者や職員は研修や勉強会、ホーム会議等で学び、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見制度に対応した経験がある。利用者の支援に際し必要な場合、ホームの経験を含め十分対応が出来る。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者やご家族等に、契約時説明をしっかりと行う。内容が変わった場合にはすぐ連絡を取り説明し、納得していただくように努力している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。利用者や家族等の意見や要望は、毎月1回のカンファレンス等でまとめご家族等に伝え、サービスの向上を高めている。ご家族が何でも意見や要望を言える様、配慮して運営に反映している。	法人の取り組みで利用満足度調査を毎年行っている。結果を運営推進会議でも取り上げている。家族には3カ月ごとに発行している『便り』や必要に応じて電話連絡をしながら状況を知らせ、意見や要望を確認している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム会議や勉強会等で運営に関する事を職員の意見や提案を聞き、代表者が取り入れるように努力している。	毎月開かれる会議の場で職員は意見交換を行っている。管理者は個々の職員が作成している業務日報を把握し、指導に繋げている。また、希望休を月2回程度取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者はホーム会議等、管理者との連絡をしっかりと取り合い職員と向上心を持って働ける職場環境を整備し、意見交換、面談を行っている。また、人事考課制度を取り入れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や職員1人ひとりケア向上のため法人内外の研修を進んで受けることで、サービスの向上と管理者・職員のスキルを高めるための努力をしている。定期的な法人内研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会に加入している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前・後、ご家族からも入念に聞き取りを行い、ご本人の思いに向き合えるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安や思いを時間をかけながらしっかりと聞き取り、そのご家族が抱えている事を受け入れるように努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族がまず何が必要かを相談の中で、出来ることはすぐに実行し必要なサービスに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の場面で一方的な関係になるのではなく、利用者様の思いに身を寄せながら共に支え合える関係に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には利用者様の状況を細かく伝え、本人と一緒に支えるという考えを共有し、関係作りに努力している。ケア記録等を読んで頂くようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	サービスを利用している事で、今までの人間関係を止めないように面会等で継続して支援をつなげている。	新しい利用者が安心して過ごせるよう家族や知人の面会の受け入れや手紙のやり取りなどの支援をしている。趣味の読書やビデオ観賞、歌等の楽しみも続けて支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係がうまくいくように職員が見守り、個別に対応したり皆で楽しく過ごせる場面づくりを大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了された方に対しても気軽に来ってもらうように声掛けやご家族からの相談にも対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日のご利用者の表情やしぐさにより、どのような暮らし方が合っているかを検討し、情報を得るように努力している。	利用者の不安や不穏の表情やサインを見逃さないよう心がけている。家族からの情報も参考に、担当職員が中心になって利用者の思いを受け止め、他の職員とも共有し合えるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者がこれまでどのようにライフスタイルを生きてきたか。地域との関わり方などをご家族から伝えてもらい把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の生活のリズムを本人の日常の行動や変化などにより感じ取り、心理面でも注目し把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者とご家族双方の思いや要望を取り入れて、スタッフで意見交換しカンファレンスを行なっている。	毎月ホーム会議の場でモニタリングを行っている。3か月ごとにアセスメントとサービス担当者会議を行い、計画の見直しもしている。状態が変化した際には随時見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用いて排泄・食事・水分・本人の行動・表情を全員が把握できるように確認している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・ご家族の状況にあわせて通院などの支援は柔軟に対応し、支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会に加入し、各利用者に毎月楽しみにご覧になっている広報が届いている。保育園児やボランティアの慰問等楽しんでいただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にご本人・ご家族に説明し、意向の確認を行い、希望するかかりつけ医で適切な医療を受けられるよう支援している。月2回協力医の往診も希望があれば対応できる。	かかりつけ医の説明は入居の際に行っている。現在は全員が協力医を希望しており、2週間に1度往診がある。他科は事業所が情報提供し、家族受診としている。訪問歯科は必要時利用できる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療機関に情報を伝え、相談・助言・対応を行なっている。ご家族にも情報を伝え、早期の受診・往診が受けられるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院に備え、医療機関やご家族との情報交換や相談を密にし、早期に安心した体制で退院できるよう配慮している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所としての重度化や終末期に向けた方針を定めており、入居時や早い段階から本人・ご家族に説明をし話し合いを行なっている。主治医、ご家族等の連携を取りながらご本人・ご家族の意向を受け止め、可能な限り支援したいと考えている。	事業所としての方針が文章化されており、利用開始の際に説明している。家族や医療機関と話し合いを重ね、連携をとりながら看取りの支援を行った実績もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを設置。使用方法の訓練を年に1度消防機関から講習を受けている。また、緊急時対応マニュアルを設置している。緊急連絡網を作成し備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	現在自主訓練は年に5～6回実施している。地域の方への協力体制については引き続き呼びかけている。	消防署へ届け出をした訓練を年2回、避難誘導の自主訓練を1回実施している。備蓄は3日間の缶詰パン・水・缶詰め等がある。利用者の好みや消費期限を確認し更新している。	消防署の立ち会い訓練を受け、具体的な指導を受けて見てはどうか。自主訓練も含め実施の様子や反省点を記録し、有効な訓練としていただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりの気持ちを尊重し、自尊心を損ねるような言葉かけや対応に注意し居住空間においてもプライバシーに配慮している。記録等の個人情報の秘密保持に留意している。	職員には、利用者個人の理解を深め、学習する事が基本であると伝えている。排泄支援の際の声掛け、食事中の声掛けなど接遇面での課題を常に意識するよう心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	まず聞くこと、笑顔で接し利用者に安心していただいた上で、ご本人がやりたい事を自己決定出来るよう声掛けし、外出・ぬりえ・体操・洗濯・物干し等一緒に行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各自の生活歴や力量に応じて、洗濯物たたみ・テーブル拭き・おしぼり巻き・下膳・野菜の下ごしらえ等希望に沿って日常的に継続できるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の着替え時や外出の時には、本人にその日着る服を決めていただいたり、一人ひとりのペースを大切に、その人らしいおしゃれができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下ごしらえ・テーブル拭き・後片付け等を職員と一緒にしている。利用者の好みや苦手な物を把握し、メニューの変更や調理方法の工夫等を行なっている。	食事当番の職員は利用者と一緒に食事をしている。利用者の希望に添い、台所で食事をする利用者もいる。外食・行事食・対面パン購入も取り入れている。食事以外では午前は牛乳、午後はコーヒーやお茶の提供をしている。	利用者と職員が、日常的に食事を一緒に味わい楽しめる取り組みを今後も検討していただきたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員が栄養バランスを考え1週間の献立を作成し、個人記録表に食事や水分等の摂取量を記録している。水は水道水ではなくミネラルウォーターを使用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後1人ひとりの口腔状態や本人の力に応じ、磨き残しが無いよう介助し、ゆすぎ等もしっかり行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿や便の排泄を自分自身で感じ、1人でトイレに行けるよう、又、失禁しないよう見守っている。排泄チェック表を利用し、尿意のないご利用者に対して個別に排泄パターンをつかみ誘導している。	排泄チェック表を利用している。それぞれの利用者に合わせ、トイレでの排泄支援をしている。排泄の後、清潔保持のため清拭を行う準備もして支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や食事の工夫や、軽い運動をするなどで予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1人ひとりの体調や気分を考えて、気持ちよくゆっくり入っていただいている。毎日入浴の実施に努めている。毎排泄後には清拭も実施している。	入浴は毎日午前から夕方まで支援している。毎日入浴している利用者もいる。入浴をしない日には清拭をしている。入浴剤を多種類用意している。シャンプー等自前の物を用意する利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	毎日を穏やかに過ごし、規則正しい生活を心掛けながら、適切な休息も取れるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常にご利用者の健康や体調を確認し、主治医の先生や担当医の先生に症状などを報告・相談・指示を受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自分自身が出来る事や役割を皆と一緒にこなっていただいている。又、それぞれの過ごし方を大切に、なるべく出来ることを続けられるよう配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個人個人の体調や気持ちを考え、散歩や外食行事を取り入れ、皆で楽しみながら家族や地域の人と協力しながら生活している。	天気の良い日には玄関先で日光浴をしたり、希望者は散歩に出かけている。外食や買い物に出かける事もある。家族と受診のために外出する他、外食、墓参りに出かける利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出の際、ご本人の金銭管理能力を把握しながら、できる能力を活かす支援をしている。 週1回パン対面販売も実施、支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人がご家族ご親戚へ電話・手紙を希望されたら、いつでもできるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールに季節感のある掲示物を貼り出したりしている。	館内は気になる臭いもなく、清潔な環境である。季節に合わせて作成した利用者の作品や行事の写真が掲示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者同士が思い思いに過ごせるようにしている。ソファも過ごしやすくなっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人のタンス・テーブル・写真等、今まで生活していた頃の使い慣れたものを用意していただいている。	使い慣れたタンスや戸棚・寝具に囲まれながら過ごしていたり、テレビや家族の写真を居室に置いている利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活が送れるように職員で課題を見つけ、月2回話し合うことで、改善する工夫をしている。		